

令和4年度（横浜国際高等学校）不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
教職員に求められる高い倫理観の保持・向上	教育の専門家としての自覚・意識を高め、教職員としてのアイデンティティを確立する。	○ 経験の浅い教職員を含め、教職員全体に対して月1回のペースで研修会実施する等、教職員の倫理に関する指針の普及や自覚・意識の向上に資する取組みを行った。
わいせつ事案防止のための校内の環境（システム）の整備	わいせつ、セクハラ行為を未然に防止する。	○ 教科準備室等の適切な利用を徹底し、わいせつやセクハラ的行為が起こらない環境整備を進めた。 ○ わいせつやセクハラの行為及びそのきっかけとなる生徒とのSNS利用防止に係る研修を実施した。
教職員を組織的にサポートする体制づくり	同僚性の醸成に向けた組織的な支援・相談体制の充実を図る。	○ 教職員が業務上の課題やストレス等を抱え込まないよう、総括教諭や管理職が連携し、組織的な支援・相談体制の充実を図ることができた。
不祥事の未然防止を目的とした専門家との積極的な連携	発生原因が不明な事案や詳細な心理分析を要する事案について、専門家から専門的な見地から原因分析や再発防止対策等について報告を受け、再発防止の取組みに反映する。	○ 神奈川県教育委員会が発行している教職員の心理状況を客観的に分析できるような質問事項が盛り込まれているチェックシートを活用し、教職員の内面の振り返りに活用した。
入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成と取扱いに係る事故防止	点検体制を整え、職員が一つひとつの業務を確実にやり、適切な処理をして引き続きミスのない書類作成を行う。	○ 校内研修で事例についてグループ討議を行い、点検の際の見落としを防ぐ手立てを考える等、事故防止に対する意識を高めた。
個人情報等の管理及び情報セキュリティ対策の徹底	引き続き生徒の個人情報の管理及び情報セキュリティ対策を徹底し、個人情報の流出を未然に防止する。	○ 部活動の連絡等で個人情報を収集する場合は、本人及び保護者の承諾を文書で取るとともに、できるだけ少人数の情報に絞った。 ○ 個人情報と情報セキュリティのためのICTの扱いについて校内研修会を実施し、職員の意識を高めた。
交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転禁止の徹底、交通法規の遵守	酒酔い・酒気帯び運転禁止の徹底、交通法規の遵守による交通事故の防止を目指す。	○ 交通法規を遵守し、安全運転を心がけて、事故の発生を未然に防止するよう周知した。 ○ 酒酔い・酒気帯び運転は絶対に行わないよう職員の意識向上を図った。
業務執行体制の確保等（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制）	教科及びグループ業務の情報共有、業務体制を推進する。	○ Teamsの共有フォルダを活用することで、教科における教材等の文書の共有化を促進した。 ○ グループ業務を複数体制で協力して行い、相互にチェックできる体制を整えた。

財務事務等の適正な執行	私費会計に関する事故を未然に防止する。	○ 管理職による帳簿確認の回数を増やし、私費会計担当者に対して、県の私費会計基準の扱いの周知徹底を図った。
体罰・不適切指導の防止	体罰、不適切指導を未然に防止する。	○ 生徒に対して人権に配慮した適切な指導を行うと同時に体罰・不適切指導の未然防止を徹底した。

○ 令和4年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和5年度に取り組むべき課題
(学校長意見)

令和4年度は昨年度以上に、毎月の職員会議において不祥事防止についての注意喚起を丁寧に行い、不祥事や事故に対する教職員の意識を高めることができた。生じた課題については、個人で解決を図ることなく、該当するグループや年次団でしっかりと検討した後、速やかに、管理職へ相談するという体制が構築されている。このことにより、スピーディーかつ正確に全体で情報の共有を行いながら課題解決を図ることができている。

令和5年度は新学習指導要領導入2年目となる。今年度の経験を活かし、より精度の高いカリキュラムマネジメントを円滑に進める。全教職員一致団結した点検体制による事故防止を進めるとともに、職員研修を通して公務員としての自覚をもった行動を引き続き促していく。